

NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www12.plala.or.jp/hokjioka/> →変更:www.hokjioka.net E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円(年額)
*会員には、本誌を配布します。



《写真説明》'14.1/17
札幌学院大学生の実習：
学生8名が分担参加。
北海道料理から「ちゃんち
ゃん焼き」の食育の様子。
食後はアイヌ言葉の授業。

INDEX

- P1: 巻頭言/
- P2-3: ヒューマンラスト/
普及活動、実践取り組み
- p4-5: 学院大学生実習、
表現科/標語チャレンジ
- p6: スタッフエッセー
- p7: ↓
- p8: 時事、カレンダー、他

「自然の奥深さと原発問題」

田中 実

3.11 からまる3年を迎える。福島第一原発の現状すら把握できない状況が続いている。にもかかわらず原発輸出や再稼働の動きが加速している。

そもそも原発の建設当初から「トイレなきマンション」と言われ、高レベル放射性廃棄物の処理方法が未確立であった。年毎に増加する廃棄物量に多くの不安が訴えられてきた。

ガラス固化体に封じ込めた地層処分でも、ヨーロッパでは10万年間を、アメリカ・ネバダ州では当初の1万年から2009年には100万年に延長された管理期間を定めている。

管理期間とは、常に人間の安全意識の配下に安全状態を保つ時間の長さのことで、それが10万年、100万年のオーダーの意味である。仮に10万年としても3000世代後の子孫にまで負担を掛け続けることである。アメリカネイティブインディアンのことわざに「大事なことは7世代後のことまで考えて決める。」とあるが、現代人はそれほど未来まで見通す力を得たのであろうか。

地表への放射能汚染の影響を遅らせるために地下300mを定め、粘土層への吸着や、安定化研究が行われている。しかし10万年間、安定な地層など北海道のどこにもない。

例えば4万年前に支笏火山が大爆発を繰り返し、125km³もの火砕流や火山灰を噴出し火砕流の一部は札幌北区の麻生まで到達した。この火砕流で豊平川は真駒内付近で堰止められ、流れを東から現在のように北へと変え、札幌市街地の土台となった扇状地を2万年ほど前に形成した。火山灰は遠く十勝平野にも降灰し30cm以上も堆積した。氷河時代とよばれる寒冷気候下の当時、数多くの火山灰古砂丘が形成された。

【以下、3ページ】

(筆者は元北海道教育大学札幌校教授で、現在は月寒スクールにてゲスト授業を実施中です)